奈文研ニュース
No.49 JUN.2013
NABUNKEN NEWS
NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE
独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
http://www.nabunken.go.jp/

解明がもとめられるポスト・アンコール期の都

アンコール・ワットで有名なカンボジアのアンコール王朝（9世紀～15世紀）は、国内に多く残存する石造建造物や碑文等の研究により、その歴史が徐々に解明されつつあります。しかし、ポスト・アンコール期とよばれる、アンコールが廃都となった15世紀から、フランスがカンボジアを保護国化するまでの時代は、史料が乏しく、これまで発掘調査等もほとんどおこなわれてこなかったため、いまだ謎につつまれた部分が多くあります。アンコールが放棄された後、ポスト・アンコール期のクメール人の都はバサン（コンポン・チャム州）、プノンペン（現在の首都）、ロンヴェーク（コンポン・チナン州）、ウドン（カンダール州）と移動します。ロンヴェークは16世紀に、ウドンは17世紀に建設されたといわれる都です。

文化庁より受託した拠点交流事業として、カンボジアの文化芸術省と奈良文化財研究所は、ロンヴェークとウドンを対象にした共同事業を2010年に開始しました。その目的は、ロンヴェークおよびウドン地域において考古学調査を実施し、調査に必要な地下探査、測量、発掘、遺物保存処理等に関する技術を、カンボジアの若手専門家に対して移転することです。発掘調査には、カンボジア王立芸術大学考古学部卒業の若手研究者が参加し、発掘準備と運営に係る測量基準点の設置、地形測量、遺跡の探査、発掘、記録、整理、成果のとりまとめ、遺物保存に至るまでの過程を現場で学ぶことができるようにプログラムを立てました。

まず、ロンヴェークとウドンにおいては、どのような遺構がどれほど残されているのかも不確かなため、遺跡インベントリーと地図作成を目指し、踏査と表面採集調査、試掘調査をおこないました。結果、ロンヴェークだけでも100以上の遺構が存在していることがあきらかになりました。また、村人からの緊急的な遺物出土情報と文化芸術省からの要請により、ロンヴェーク中心部から北西15キロの位置にあるクラン・コーという村でも調査・研修をおこないました。

クラン・コーは、村人が畑で発見した陶磁器等から、ロンヴェークとの歴史的な関連性が深いと考えられています。発掘の結果、クラン・コー村から、複数の墓葬と、輸入陶磁器、在地土器、鉄製小刀やガラス製小玉などの副葬品が出土しました。クラン・コー遺跡の発見です。アンコール王朝期の実態解明に世界が注目し、国際的な研究・支援や協力がアンコール遺跡群に集中するなかで、ポスト・アンコール期の研究は、まだ始まったばかりであり、更なる調査研究が求められています。

本事業では、計6回の調査・研修をおこないました。この間、現場研修を受講した若手研究者は50名以上におよびます。準備から発掘、成果報告まとめ、遺物整理、保存処理までの一貫した研修を受けた成果として、近い将来、若手研究者主導による発掘が、カンボジア国内で実施されることが期待されます。

（企画調整部　田代 亜紀子）

クラン・コー遺跡調査の様子